

刊夕日十二月一十



定額一冊五元... 發行所 常磐毎日新聞社

### 救護法に就て

平町共済委員 門傳清吾

(一) 前述第一章第一號六十五歳以上の老衰者なることを要するものであるから六十五歳未満即ち六十四歳までは假令貧困でも救濟せられぬことになる。夫れは六十四歳迄の者は特種の事情のない限り労働能力があると観て本法に依り救護を受けなくとも労働をすれば生活し得る筈だ、と解して居るからなのである。

### 原稿募集

(一) 老衰者の所に述べた理由と同趣旨であるから其部分は説明を省略するが、其他の理由としては如何に貧困なればとて、十三歳以下の幼者を無理な労働に従事せしむるが如きは其健康を害すること大なるものがある。其處で労働法に於ても十四歳未満の者は労働に従事せしめぬ事に禁止規定がある。又教育方面から見ても、義務教育年限中にある者を労働に従事せしむることにしては、教育の普及を阻害する等の不都合があるから、之を除却し様とする精神に原因するものと信ずる。

### 童話 逃げた猿

矢野泰助

活版屋のお上さんは、赤坊を抱いて、少し蒼い顔をして、火鉢のところへ坐つて居りました。そのわきに宇一さんが、カバンを背負つたまゝ坐つてゐるのが見えました。 「宇一さんなんかも、ずいぶん猿をいぢめたもんだ」と由太郎がいひました。 「何とかして、つかまらな

### 革靴自製部新設

注文靴 修繕靴 親切丁寧 請合

●高級ゴム長靴 ●五圓均一靴 ●各種靴類

菊地靴店 電話呼四三六番



玉屋洋品店 平町田町通電話六五六番

### 耳鼻咽喉科専門

平町南町一

増田醫院 電話四八二番

セメント 壁用材料 コーキング材料 ペンキ塗料 板ガラス

磐城セメント株式会社 代理店 西村屋薬舗 平町二丁目電話三

### 秋深し!!!

山は紅葉として カメラ絶好のシーズン

### 優勝旗争奪戦

第三回小型カメラ懸賞寫眞募集

規定及詳細は當店ウインドーに掲載してあります

### 賞品

- 一等 高級名刺判カメラ 一組 一人
二等 最高級金屬バインブ製三段式三脚一個 一人
三等 特製カメラ入靴 一個 三人
四等 現像定着液 一組 五人
五等 ショリ臺紙一打或はアルバム一冊 十人

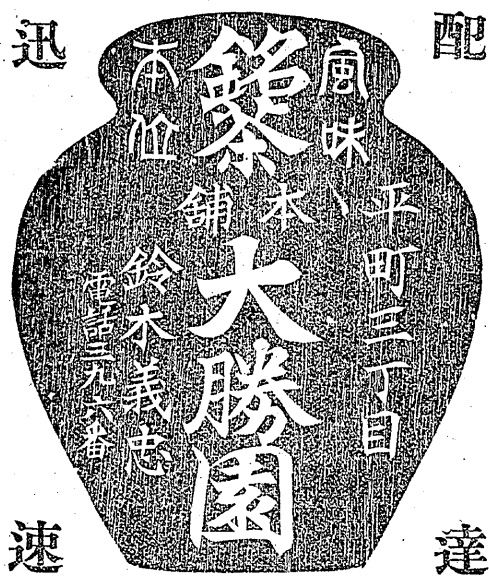
平驛前 いづみや玩具店

### お茶の値下斷行

本場銘茶の優良品を一段と品質を向上致しまして英斷的値下致しました、何卒御試飲下さいませ

煎茶四十目袋入 十錢より 五十錢まで

ほうじ茶四十目袋入 十五錢 第二號十錢



迅速

# 漸次普及される

## 小學教育の郷土化

### 全國的の氣運に先驅け

#### 郷土副讀本の内容充實

石城郡教育會では小學教育の郷土化を圖るべく昭和二年三月の郡下小學校長會議における協議に基づき先づ平町各小學校においては兒童副讀本として郷土讀本を編纂し平町を中心とした歴史、地理、名勝、口碑、傳説及郷土の

#### 生んだ偉人などに關

し本郡下全般に亘る資料を蒐集して一冊に纏め之を先づ試験的に尋常四年生以上に一週一時間の割で課したる所成績頗るよく兒童は喜んで郷土教育に親んでいつたので當局者も大いに力癩を入れて漸次讀本の内容も改充し現在に至つたが

この平町各校における郷土教育は本縣にてもトップを切つてゐた爲め各方面に對し非常なセンセーションを起して續々と同様な副讀本が各校に夫れ編纂され兒童の郷土心理を満足せしめて現在四倉、草野、内郷、小名濱の各校が各自校本位の郷土讀物を作成してゐるがこの程川部、玉川方部でも郷土副讀本を採用すべく決定され斯くして漸次石城郡下一帯に普

及されるものと觀られてゐるが

小學教育の郷土化は實に今や全國的の氣運にあり石城郡教育會がこの先鞭を着けてゐるのは誠に愉快なことであるによつて兒童の郷土愛を育成し徒らに都會へ走る心理を抑へ得ることが出來れば郷土教育も理想に近づきものであると一教育者は語つてゐるが郷土副讀本が

#### 今日の如く重要視さ

れるに至つたので當局者は現在よりも益々内容を充實せしむべく之が經費捻出につき考慮中で東京の圖書出版部に對しても出版費用其他に關し交渉中であると

#### 今月上旬は

### 出炭減

#### 近年に稀れ

今月上旬における常磐炭礦出炭状況は營業用四萬六千五百九十七噸鐵道省用一萬九千六百二十九噸で昨年同期に比し三千八十三噸の出炭減であるがこれは近年稀な現象で石炭の需要期に入りながら炭坑界は依然沈滞を示してゐる

#### 赤井村會

### 紛糾續く

#### 廿三日再開

既報赤井村における若松美三氏に對する戸數割賦課の村會は十九日午前十時から

## 動力農具競技

### 出場者抽籤で決定

#### 多數の應募者中から

#### 本日郡農會で發表す

來る廿七日平町團體事務東隣りに開催される石城郡農會主催動力農具競技會は既報の如く刈入時にも係はらず應募者續出し一團五名宛十五團七五名の人員も既に突破し係員は是が人員の選考中であつたが本日左の出場者が決定發表された

#### 副業獎勵金

#### 補助交付額

豫ねて副業獎勵のため石城郡農會及石城養蠶組合から獎勵金交付申請中であつたが今回左の如く補助認可があつた

#### 地鎮祭

#### 今朝第三校に

平第三校庭に新造される御眞影奉安庫地鎮祭は今日二十日午前七時半から伏見平町長外町議一同參列山部神官司祭で壯嚴に舉行された

#### 産業事務講習

#### 修得證授與式

本月十六日より五日間團體事務所樓上にて行はれた石城産業組合の産業事務の講習會は本日終了したので午後一時より聽講生平信用組合相川四郎外三〇名に對し修得證の授與式を舉行した

#### 性源寺新築堂宇

平町長橋町性源寺にては愈々着手すべき堂宇の新築に關し昨日午前八時から總代會を開いたが屋根を銅葺にすべきか瓦葺と爲すべきかに就き種々意見がある模様である

#### 平窪平年作

#### 稻刈り終る

石城郡平窪村では最早稲の收穫も七分通り終了したが本年は天候不順の爲め一般に凶作を豫想されて居たが其後順調に恢復したので昨年度の收穫は得られまいが大體平年作と同じ位の收穫がある模様で農家では安堵して居ると

#### 平職業紹介所便り

▲求人部  
△女中 數名中學教員の家庭其他數件申込あり給料は五六圓程度  
▲求職部  
△夫十數名 成るべく

通勤で一日八十錢位を條件とす

#### 支那は兵隊よりも

### 馬賊が強い

#### 草野村出身

#### 芳賀君の書信

石城郡草野村出身滿洲國家屯警備步兵第九聯隊第七中隊芳賀貞義君は去る十八日平南中村教諭宛に左の書信を寄せた

(前略) 何にしろ來る日も、來る日も果てしなくうら淋びしい曠野を汽車に依つて輸送され、さもなくば行ない事話の外の支那部落の宿營です、だが馴れてしまへばそう苦しいと思はれなくなり、満州は早や初冬です、氷が張り堀り更へした土は氷結します、高粱はすでに刈り取られ、何處を見たらつて山なんが一つもない曠野！太陽は地平線下に出没します。(中略) 去る奉天城攻撃後長春に行き再び鄭家屯に來たりて警備の任に着いて居ります、鄭家屯は御存知かも知れませんが、滿鐵四平街より西北方三十里位の地点で蒙右の入口にあたり、重要地點をなして居ります、街とは言ひとも支那の田舎街だ、何にも見るものなんかありません、賊

## 耳鼻咽喉科専門

### 大和田醫院

平町南町 電一七〇

六時二十二分歸平

#### 平町人事

#### 回死

△二丁目 當時東京府下豊多摩郡三橋町柏木白鳥文子(二ツ)

# 在滿兵へ贈る

## 可愛い、姉妹の心情

### 本社を通じ

### 平第二校の飯塚さん

### 満洲の話に感激して

暴戾 支那の暴民を鎮  
なる 壓し我が満洲の  
權益人民を擁護せんため  
極寒風雪と闘ひつゝ悪戦  
苦闘してゐる我が在滿兵  
の勇壯な戦報を聞き可憐  
な胸にも在滿兵の苦闘を  
思ふ小學校児童が純真な  
心の發露から慰問の贈り  
物をするといふ何と嬉し  
い便りではなからうか

平第二 學校尋常五年生  
飯塚てふ子(一)  
さんと尋常三年生飯塚さんと(二)  
子(三)さんといふ可愛い、  
姉妹が御大典記念として學  
校で行つてゐる毎月二回の  
貯金からてふ子さんが三圓  
さんと子さんが二圓と夫れぞ  
れ出し合つて在滿兵に送つ  
て下さいと今日日本社へ申  
込んできた

てふ さんは平町紺屋町  
子(一) 飯塚信一郎氏の  
長女でさんと子さんは二女  
であるが學校で受持の小  
松先生や先崎先生から滿  
洲のお話を聞いたり家へ  
歸つてはお父さんが新聞  
を読みながら戦争のお話  
をするのを聞いて非常に  
感激したさんと子さんが

兵隊へ私も何か贈つ  
さん てやうかと言  
つたのが始まりで「ぢや二  
人一緒に贈りませう」と姉  
さんも一緒に贈ることにな  
りお父さん達も大變喜んで  
早速先生へ相談し御大典記  
念貯金の中から拂下げて贈  
ることになつたものである  
と、今日記者が學校へ訪ね  
ると受持の先崎先生はおカ  
ツバのさんと子さんを前にし  
てニコニコしながら語る

私共 からこんな感心  
の綴 な生徒が出たの  
は誠に嬉しい事で御社の  
手を煩はして在滿兵にこ  
の美しい心情が届けば此  
の上ない喜びです、さんと  
子さんもてふ子さんも成  
績は非常によく常に優等  
で、それにどちらも快活  
な性質で感激の強い子供  
です、今度も私共やお父  
さんなどの話に感じたら  
しいのです

白銀の青年  
慰問金寄贈  
感心な行爲

平町北白銀町北野博(三)君  
は目下滿洲各地に奮戦して

來たので役場員は直に關東  
軍司令部宛に送金したと  
平町から  
花環弔旗贈呈  
あす若松に  
慰靈祭舉行

明廿一日若松市において第  
廿九聯隊留守隊の手に行は  
れる戦死者慰靈祭には平町  
から花環弔旗を贈ること、  
なり伏見至町長は石城町村  
支會長として参加する筈で  
ある、尙本郡からは山崎在  
郷軍人聯合分會長が列席す  
べく出發した

今晩の部  
後六、〇〇 お話「トシネ  
の出來るまで」岡田實  
後六、三〇 英語講座 村  
岡博  
後七、三〇 趣味講座「福  
島杉城と私語橋の由來」  
金徳淳  
後八、〇〇 連続漫談「と  
ても腹の空つた話」(二)  
徳川夢聲  
後八、三〇 琵琶「羅生門」  
野桃千代

郡南地方を荒し廻つた  
妙令の女白浪逮捕  
植田國道を逃走中  
更に窃盜犯も捕る

最近石城郡南地方に小嵐泥  
の横行甚しき爲め植田署で  
は昨夜來署員の非常召集を  
行ひ警戒網を張つて嚴重に  
監視中の處今日朝二名の  
窃盜犯を逮捕したが一名は  
田村郡二瀬村生れ安藤ミヨ  
シ(一)と稱する女賊にて植  
田町古物商鈴木菊松方に忍  
入つて現金衣類等廿四圓を  
窃取し午前四時半頃關田地  
内國道を逃走中捕はれたも  
のであり他の一名は午前五  
時頃石城郡錦村字仲田附近  
の大日本炭礦貯炭場より同  
村瀬谷友吉(二)が石炭十五  
貫を窃取せるを逮捕された  
ものである

植田署員慰勞 別項  
非常警戒に二名の窃盜犯を  
逮捕した植田署にては若松

自動車運轉手組合  
今夜設立に關し  
有志が集合協議

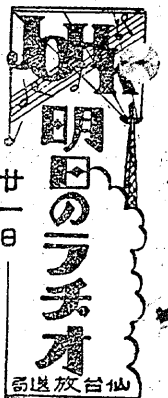
平署管内自動車運轉手は過  
般來従業員組合を組織すべ  
く種々準備中の處愈々意見  
が纏つた爲め本日午後七時  
から平町の運轉手有志卅名  
平署前夜警屯所に集合創立  
總會に就いて種々協議する  
筈であるが多分總會は十二  
月下旬頃催される模様であ  
ると

入營兵送別  
非常な活況  
參列者多數

信榮母の會 信樂幼  
稚園の會では来る二十三日  
午後一時から東京より富田  
氏を招聘し同氏の講話があ  
ると

漁船轉覆し  
漁夫九名危く溺死  
今朝新舞子沖半湮にて

石城郡江名町金成米彌所有  
の漁船榮丸は今日二十日草野  
村新舞子沖半湮附近に出漁  
中轉覆した爲め乗組員九名  
は危ふく溺死せんとしたる  
も無事海岸へ泳ぎつきいづ  
れも附近民に救助されたが  
漁船は目下引揚作業中



明日のラジオ

今晩も明日も北  
西の風強く晴れ  
たり曇つたり

明日の部  
後九、一〇 料理献立  
「氏より育ち」鳴谷一二三  
後九、〇〇 連続漫談「と  
ても腹の空つた話」徳川  
夢聲  
後八、三〇 運動競技「日  
米對抗拳闘」  
後八、〇〇 連続漫談「と  
ても腹の空つた話」徳川  
夢聲

後一、一〇 日米對抗野球  
試合状況  
後六、〇〇 童謡と唱歌  
一、齊唱「香蘭」二、獨唱  
「花火」居眼り地蔵「阿部  
愛子」三、對話童謡「桃  
太郎」四、獨唱「月光」  
「草刈女」しやばん玉  
五、獨唱「旅愁」村山菊枝  
六、二部合唱「希望の囁  
き」  
後六、三〇 英語講座 青  
木常雄  
後七、三〇 趣味講座「福  
島杉城と私語橋の由  
來」金徳淳  
後八、〇〇 運動競技「日  
米對抗拳闘」  
後九、〇〇 連続漫談「と  
ても腹の空つた話」徳川  
夢聲

部神官の祭袂祭奏上あり  
玉串を奉奠し伏見町長の送  
辭や來賓の祝辭演説あり時  
局に鑑み參列者頗る多く非  
常に活況を呈した

磐女で  
作品展覽會  
廿九日には  
生徒音楽會

縣立磐城高等女學校にては  
来る廿八日午前十時から縣  
下各女學校及び郡内小學校  
尋常五、六年各生徒の成績  
品展覽會を開催し翌廿九日  
午後零時半からは生徒の音  
樂會を催す由にて此の特殊  
な二つの催し準備の爲め各  
職員は非常な繁忙を來して  
居ると

信榮母の會 信樂幼  
稚園の會では来る二十三日  
午後一時から東京より富田  
氏を招聘し同氏の講話があ  
ると

# 小説 七五郎

(九十)

渡邊默禪作  
布施平八郎畫

【載轉禁】

意氣地 (15)  
泣き沈むやうに、がつくりと首を投げた。

「そ、そんな事が起つて居るのか、そ、それは大變だいやお前の心はよく分つた俺は泣きたいほど嬉しい、でも聞いたら猶の事、お前一人を此處に残すと云ふ譯には行かない、といつて俵なし、あ、どうしたもんだらうなア、實に困つた事だなア……」

源之助はわく／＼と悶へ苦んだ。  
その際フレーヤ俱樂部から二人の跡を追つて繰り出した一隊は、例の拳闘家バールセルを先頭に立て、婆さんのポイドの外に支配人代理の日本人やボーイを合せ丁度七人、電車を降りて西園の方へ、西坂を降りて西の橋へ出て見たが二人に出會はなかつたので橋から右へ折れ、濠りづたいに此處へガヤガヤ話しながらやつて来た。

× × × × ×  
からりツと夜が明けた、でもまだ太陽が上らなかつた、行く春の磯子の朝は鳩羽色に彩とられた空の雲とオパール色のように光る入

江の海と、處女の眼のよう澄みきつた空気に包まれて、美しく且つ静かにゆふべの眠から覺めた。  
「ちよいと、お爺さん早く行つて御覽今の中でないと駄目だつてばよ」



鼻をかんでから  
「婆さん、昨夕は奥から電話が掛つてこなかつたの、いつも夜半に二度づつは極つて起されるものを、珍らしいではねえか」  
「そりやア、お前さん、その筈だアね」  
「何故だ」  
「何故だつてさ」  
爺さんは顔を洗つてから鳥小舎の戸を明けて雛子を

別荘番のおみき婆さんは寢床の中から欠伸まじりに大きな聲をかけた。  
「む、然うだつたの、ちよこらいつて見べいか」  
起きてから間もない事、井戸から水を汲んで来て、ちやぶ／＼と涼しい音を立てさせ小盥で顔を洗つて居た儀平さんが、きん／＼ツ

け出して行く雛の群を見送りながら、内と外とて野良聲で話し合つた、別荘とこの小舎との間はそんなに遠くはないけれど便利の爲め室内電話が架けてあつたためである。  
「まア、そんな事はどうでもいゝやなア、早く行つて御覽と云ふのは暢氣な人だ

ねえ、ほんとうに」  
婆さんは元氣に怒鳴つたでも寝て居た。  
「む、行くだよ」  
爺さんは思ひ出したやうに納屋の前から竹箒を取り出して、畑の中を横に突つ切つて行つた。  
乳色の朝靄が斜るよう消えて行く、後の若尾山や山王山の頂にすい／＼と立つた松を一本一本数へられるほどに、ハツキリと瑠璃色の空があらはれて来る麓の若葉の森に圍まれた小さな葉小屋がちらほら、のろ／＼と立ち昇る炊煙の煙が黄色の菜の花畑と青い水田の上に薄く流れて、其處にコトコトと泣歎歎る蛙の歌が残つて居る、此の物寂びた山里を背影にして、前に打ち擴げた象の鼻と突き出したやうな富岡の岬から梅の名所杉田の社、遠くは房州の山の姿をほのかに見下ろすことの出来る邸の上に見建て居るのが十文字家の別荘であつた。

**梅毒** 皮膚病 婦人病  
**淋病** 腸胃病 腸病

門專  
院醫科 村松  
七〇一 電話

**毛糸** 編物用具  
全部新色 31.2 幸  
入荷致しました  
相變らず御用命の程……

平田町 糸店

磐城セメント會社特約店  
**久全屋**  
磐城平町五丁目 電話九番九九番

吉田眼科病院  
平紺屋町、電話六八番

□良品廉賣に勝る商略なし  
□確實敏捷はの生命なり

花柳科専門  
**木村外科醫院**  
平町五丁目橋際 電話三〇九番

寒い／＼北海道で出来る靈藥  
胃腸病藥の王座を占むる純漢法藥  
松前公御典醫之秘法 家傳商標  
靈効散

靈効散  
平町古鍛冶町(電話四四番)

地方代理店 **阿康藥舖**

簡易食堂の新設  
各室の改築と

**石川亭**  
田町 電話四三番

▲牛鍋 一枚三十錢  
▲御飯 一人前七錢  
▲上酒 一本三十錢  
簡單且經濟的に御食事なさるお方には最も便利で御座います何卒御利用下さい尚本日より二十三日迄豚肉一割引

時計眼鏡  
トキワヤ  
平一・電三三九